

決意の言葉

暖かい陽の光が降り注いで、早くも桜が咲いており、私たちの卒業を祝福しているかのようです。春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。

2年前の春、美容への夢を抱き鎌倉早見に入学しました。入学当初は何から何まで初めてで、とにかく新鮮でワクワクするような発見の連続でした。とくに技術力が問われるこの業界のため、高校とは違う厳しさを肌を感じる場面が多くありましたが、先生方やクラスメイト、家族の支えをいただきながら2年間駆け抜けました。

大きなイベントの一つ、ヘアショーでは、より良いものにするためにメンバーの中での意見の食い違いや長時間の話し合いが絶えずの毎日で精神的にも肉体的にも辛いことが多くありましたが、その葛藤の中でまた一つ皆との壁が無くなり、一層深く関わり合えることができたと思える、そんなやりがいのあるヘアショーでした。また、後輩という存在ができ鎌倉早見が一丸となってやり遂げたということに涙が出るほど達成感を感じました。

国家試験対策の時期になり、気の緩んでいた私たちに先生方の厳しい言葉をいただいてから皆の取り組む姿勢や空気がガラッと変わったのを鮮明に覚えています。頼りない2年生と思われていたことでしょう。ですが、根気強い先生方のご指導があったからこそ、ここまで諦めずに成長することができました。時には厳しく、時にはふざけて笑わせようとしてくる先生方。どれだけ感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

最後に、他の誰よりも多くの時間を共有してきた一緒に卒業するみんな。少人数の学校だからこそ、よりお互いを知ることが出来て、他のどの学校よりも仲がよいと思っています。授業中のさりげないつぶやきや、うるさくてすぐに注意されたり、休憩時間の他愛のない話で教室を笑顔いっぱい満たして絶えなかった毎日は、一生忘れない素敵な思い出です。ありがとう。これがもう今後は無いと思うと辛く、寂しく思います。ですが、これほど面白くて優しい大切な仲間と出会うことが出来たと思うと、この学校に入学して本当に良かったです。

私たちは明日からそれぞれ違う道へと進みます。しかし気持ちは皆同じ、少しの期待と不安を胸に抱いています。どんな辛く困難なことがあっても簡単に躓くことなく、前を向いて先の未来へ邁進していきます。陰ながら応援してくれた後輩、私たちの背中をそっと押して支えてくれた家族、未熟だった私たちを指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

長くなってしまいましたが、以上をもちまして決意の言葉とさせていただきます。

令和5年3月11日

卒業生代表 美容学科第83回生 柴田波月